

8. 学術会議第19期数学研究連絡委員会委員選出日程

日本学術会議数学研究連絡委員会(数研連)の定員は、会員2名を含めて24名です。第18期の数研連では、日本数学会から推薦した委員は19名でした。

第19期の数研連に対し数学会から何人の委員を推薦するかは、現時点では確定していませんが、前回にならって以下の手順で委員の選定を行います。

2003年4月：賛助会員・外国会員を除く日本数学会会員を被選挙権者、賛助会員・外国会員・在外会員を除く日本数学会会員を選挙権者として第1回投票を行い、参考者を選定する。

2003年5月：第2回投票を行い、数学会推薦の数研連委員を決定する。

なお、数研連委員選出に関わる、日本数学会の規約は次の通りです。

「数学研究連絡委員会委員候補者選出方法」

1975年2月 評議員会承認

1985年4月 一部改正

1994年9月 評議員会承認

(5. 追加)

1997年9月 評議員会承認

1. 投票は数学会全会員の無記名投票により、第1回投票(予備投票)、第2回投票(本投票)の2回の投票を行う。

2. 第1回・第2回とも、投票は地区・専門分野に関わらない者2名、投票者所属の地区から1名、専門分野から1名の計4名連記とする。ただし、地区別は北部地区・関東地区・中部地区・関西地区・西部地区の5区とする。各地区と支部との対応は次の通り：

北部地区...北海道・東北支部

関東地区...関東支部

中部地区...中部支部

関西地区...京都・阪神支部

西部地区...中国・四国、九州支部

専門別は、代数系・幾何系・解析系・応用系の4系とする。各系と分科会との対応は次の通り：

代数系...基礎論および歴史、代数学各分科会

幾何系...幾何学、トポロジー各分科会

解析系...函数論、函数方程式論・実函数論、函数解析学各分科会

応用系...統計数学・応用数学各分科会

3. 第1回投票の時には学術会議の選挙規定から被選挙権がない者および第5項の規定により上位推薦順位となる者が確定している者には被選挙権がないものとしてその名前を通知する。それらの者への投票は無効とする。

4. 第1回投票の結果により、総得票数の順に数学研究連絡会議(以下数研連と略称)委員の約2倍の第1次候補者を選ぶ。ただし、別に定めた規則に従って、各分野・各地区から選ばれた第1次候補者が少なくとも2名は含まれるように調整する。この手続きで得られた候補者を五十音順に並べた名簿を、第2回投票の時に全会員に通知する。ただし各1次候補者の第1回投票における得票数は公表しない。

5. 第2回投票は、前項の第1次候補者名簿の中から選んで投票し、その結果に基づき、次の順位に従って推薦順位表を作る：

- 1) 日本数学会推薦学術会議会員候補
- 2) 国際数学連合理事で日本数学会会員である者
- 3) 任期の間に国際数学連合理事となる者が確定している日本数学会会員
- 4) 第1次候補者、ただし第2回投票の得票順

6. その後学術会議からの委員推薦依頼があった時に、その推薦者数だけの候補者を前項の順位表に従って選び、推薦する。ただし、各分野、各地区から選ばれた委員が少なくとも1名は入るように調整する。この際すでに学術会議委員になっている者は除く。また、得票数の同じ者が複数あることによって必要な推薦者数を超え

る場合はその中から理事会が候補者を決定する．

7．数研連の委員に欠員が生じ，これを補充する時には，上記第5項の順位表において数研連委員でない者を最上位の者から必要な数だけ選び，推薦する．ただし国際数学連合理事あるいは数研連の任期の間に国際数学連合理事となることが確定している日本数学会会員で数研連委員でない者がある場合には，その者を優先して推薦する．同順位にある者が複数あることによって欠員の数を超える場合はその中から理事会が推薦候補を決定する．